

あっぱれ、文武二道の達者かな

福岡高等学校長 野見山 義隆



関西福中・福高同窓会会員の皆様方には日頃から母校の発展のため、一方ならぬご支援とご協力を賜っていますこと、厚く御礼申し上げます。

早いもので、昨年四月本校に赴任しまして、一年が経過いたしました。一年を振り返り、印象に残る出来事をご報告致します。

先ずは、本校の教育方針でございますが、厳しい生徒指導のもと、自主性、主体性を、育み文武両道を究め、生徒諸君が、我が国に、地域社会に、将来大いに貢献する有為な人材として成長することを期待するものであります。特に厳しい生徒指導は「颯軍ののほり」の例え話として知られるように本校教育の根幹をなすものであります。

ところで、本校の体育祭は、その歴史を昭和二十三年の第一回運動会にまで遡上ることが出来ますが、今日、体育祭は生徒が自主的に運営する学校行事として、大きな評価を得るに至っております。その体育祭についてであります。体育祭を案内するポスターを美術部の諸君が作成いたしました。そのポスターには、体育祭の終了時刻が一五時四十分と書かれていました。本校を訪れ、そのポスターを見た他校の校長さんが、「終了時刻の四十分の一分には何か意味がありますか。」と私に質問されました。私は、「それは四十分丁度終わるということでしょう。」と答えておきましたが、本当に四十分丁度終わると思ってもいけません。体育祭当日、終了時刻が近づき、本場に四十分が終わるかどうかが、半信半疑でしたが、みごと四十分丁度で終了しました。これには、びっくりいたしました。もったいなく、生徒から、「校長の開

会式での挨拶は三分三〇秒でお願いします。」と、釘をさされてしまったが、それにしても、秒単位での挨拶の注文は初めてでした。文武両道は本校の教育方針のひとつであります。多くの学校で、「うちは文武両道です。」とよく言われますが、運動の選手と勉強の選手を、別々に集めた文武分業が多いように思われます。本校では、八〇パーセント近くの生徒諸君が部活動に入り、文字どおり文武両道を究めています。この卒業した五十一回生は、最近にないすぐれた進学実績で、文武両道の実をあげ、後輩諸君にみごとな範を垂れてくれました。あっぱれ、文武二道の達者かな！

関西福中・福高同窓会の皆様のご発展を祈念し、ご挨拶とします。

野見山校長先生は、母校の第一九代校長として、昨年四月に赴任されました。



福高中庭に建つ外尾氏(高25)の彫刻



関西同窓会の更なる発展を期待して

福中・福高同窓会会長代行 阿部 輝明 (中12)

関西福中・福高同窓会会報「関西朝ばらけ」の発行からはや一年、関西同窓会の皆様には、常日頃から同窓会へのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

皆様のご活躍を拝見させていただきますと、本部同窓会と致しまして心強く感じられます。これからもよろしくお願い致します。

さて、皆様に誠に残念なご報告をしなければなりません。それは、創立八〇周年事業に会長としてご尽力いただいた山本哲夫会長(中9)が、本年一月一六日に逝去され、また副会長として永年活躍された穴井毅氏(高7)も逝去されました。

同窓会の大黒柱を失ったよううで残念でなりません。創立八〇周年記念事業の中庭「パティオ」も一時帰国された外尾悦郎氏(高25)の監督のもとに、三月三十一日までに完成致しました。外尾氏によれば、「自分のイメージ以上の素晴らしい出来上がり」と賞賛しておられました。お二人にとっても、この記念事業の完成は、このうえない喜びであつたらうと推察致します。中心となつて活躍されたお二人のご冥福を皆様と一緒に祈りたく存じます。

最後に、躍進する関西福中・福高同窓会の皆様のご発展をお祈り致します。

福中・福高同窓会では山本会長のご逝去に伴い阿部輝明先輩(中12)が会長代行となられました。五月十二日、小林彰先輩(中25)元福高校長が新会長に選出されました。

私に関西に来たのは、昭和二十六年で、親光のつもりで受けた大阪市職員に合格採用されたからです。

知人も住居もなく旅館住まいのままならず、蒲団を地下鉄で運び、アベノ筋の市寮に飛び込み、階段下の三帖間に無理に入寮させてもらいました。無計画で恐ろしく知らずの田舎者であつたと思います。

仕事は、経済局の食肉を生産する屠宰場に配属され、単純な事務に飽き飽きしていた時に命じられたのが、我が国初の中央卸売市場を創設するための農林省との協議、業界組織の編成、建設予算と開設後の収支、将来計画の作成等、場長以下三名で、企画から建設、関係条例を三〇年一〇月着手、三二年工事着手、三三年一月開設と、この間の書類作成はすべてカーボン複写とガリ版刷写印刷を自らやらねばならず、連日の午前様でした。よく身体がもった



前副会長

浦野長幸 (中25)

関西と私

ものだと、若さというものの有難さがわかりました。

今後は健康に留意し、家内と一緒に趣味の旅行を続けるつもりです。

千代の松原の垂訓

小山 富夫(高4)



六十も半ばを過ぎると、過ぎ去った日のいろいろな思い出が懐かしさで蘇ってくる。そのなかでも、中学から高校にかけての思い出が一番鮮やかで、丁度、昨日か一昨日の出来事のように。

終戦の翌年である昭和二十一年四月、無事に旧制福岡中学の難関を突破し、玄關に福中マークのついた表札を掲げることができた。その折りの両親の喜びはひとかたではなく、その後の人生のなかでも一番喜んでくれた。今から思えば生涯のなかで最高の親孝行だったのではなかろうか。

しかし、世の中は、折からの物資不足、食糧難の時代で憧れの制服は黒地に白線入りではなく、軍隊用のカーキ色の生地で作られた丸襟に白線が付いたものであり、かつては魚雷を包んだ生地ととも、どう見ても憧れのイメージとは程遠かった。食べ物と言え、本当に飢餓状態で、中学の思い出は空腹の思い

出といっても過言ではない。腹が減ったということに

関して、こんなエピソードがある。確か中学の一年生の時だったと思う。昼休みか放課後、全員が集合し、ラグビーの試合の応援練習があつた。「オールメン、元気で拍手!」しかし、いつになくトーンが低い。応援団長が「どうしたのか!」と叫んだ。誰かが「腹が減っている」と言った。すると



全国制覇を遂げ市内をパレード

だ。そして、苛烈な練習と全校一丸となった応援の甲斐があり、昭和二十二年には、見事全国制覇を遂げたのである。

時あたかも、占領軍のGHQが、古い日本の構造を改革したり弊害を取り除くという大変革の時代。教育の世界にも荒波が到来し、新制度のもと、中学校が高等学校へと改称。併置中学を三年で卒業し、同じ校舎でありながら高校一年生となる。従来、男女は中学校と女学校に別れ男女別学であつたものが、この日を境に共学となり、女学生が、

と「腹が減っている者は立つて!」と言われ、二、三人が立った。その刹那、三年上級生であるラグビー部のM先輩の鉄拳が飛んできた。そして、全員に向かって「君たちも腹が減っているかも知れないが、俺たちもイモやお粥を吸って練習している。腹が減っているのは皆一緒

この男臭い校舎にくるといふのだ。当初は、女子への期待感やトイレ問題などで違和感が強かったが、一年も経ち、女生徒を含む次の新入生を迎える頃には、大団圓を着いてきたかと思う。後日聞くところによれば、この期間のご苦労は、恩師たちのほうがもともとと

大変なものであつたのである。このような状態で、ともあれ男女共学がスタートしたのであるが、新学期も間もないころ、津屋崎の東郷公園に遠足に出かけた。丁度、雨上がりの燃えるような新緑と、初めて一緒に歩く女子生徒、ともに眩いばかりのハイキングであつた。

ところが帰りの西鉄宮地岳線の電車に乗るとき、本当に疲れていたのか、座席をとるため女子生徒とすっぴん顔で、我を忘れて争つた。その時、生物担任の長田先生が割れ鏡のような大きな声で叱責された。どういふ中身が判らなかつたけれど、二天下の福高生、恥を知れ!何故女生徒に席を譲らないのか!という意味だつたと思う。全員、返す言葉がなかつた。それ以降、この叱責が今日まで心に突き刺さっている。乗り物などで座席を得るとき、恩師のことはに恥じないよう心がけているつもりである。

もう一つ、恩師の苦い言葉が思い出される。体育担任の花田先生の言葉だ。炎天下の校庭、草取りの場面である。皆が何となくだらけた様子でやつていた。先生の「もうよい、やりたくないから止める!」の一言で、クラス全員運動場を走らされる羽目になった。恩師は「福高生は勉強のこしか考えない利口者が多

すぎる、もう少し馬鹿になれ!」とおっしゃりたかつたのだらうと思う。それから、皆が何事にも協力的になり、勤務に、スポーツに、直接試験の成績に関係ないことにも積極的に取り組むようになった。その後、運動部各部において、全国制覇や準優勝の好成績が

この度、辰巳常任幹事(長福高6)から投稿のお誘いを受け、貴重な紙面を拝借することになりました。御校と修猷館とは、世間では良きライバル校と言われ、九大への合格者数で一升瓶をやりとりした先生

福中・福高の諸先輩

近畿修猷会 幹事長 久保 浩



のグループがあつたことが、私は高校を昭和三十三年に卒業しましたが、在学中は平凡に過ごし、他校との交流はなく、御校出身者との交わりは、九大剣道部に入部したときから始まりました。

私は高校を昭和三十三年に卒業しましたが、在学中は平凡に過ごし、他校との交流はなく、御校出身者との交わりは、九大剣道部に入部したときから始まりました。

続き、福岡市内を職を立てて歩いた記憶が懐かしい。最近、関西同窓会の状況を見てみると、日々の業務に追われ心身のユトリを待たないためか、行事への参加や会費納入などに関して同窓生の協力の度合いが気になる。

「ふくよか会」に出席し職しましたが、そこで、今も高槻市にご健在の佃利夫大先輩(福中12)から直接ご指導を受ける機会に恵まれました。同窓会に関連してお付き合いは、私が近畿修猷会の年度幹事として、同窓会にばかりでできた昭和六十二年からです。福岡の香りを少しでも運ぼうとの考えから、福岡県大阪事務所に相談に行つたところ、

そこ、当時の福岡県人会副会長の江崎慎一(福中16)がおり、相談に行つた三人は即刻県人会に入会するはめになりました。当時、江崎先輩は御校同窓会会長でもあり、そのころお目にかかつた方佐田孝男先輩(福中24)、小山富夫先輩(福高4)には未だにご指導を頂いております。江崎先輩はそのころから「福岡県人会を活性化するには、高校の同窓会が中心にならんといかんバイ。」と

て他校の同窓会の盛り上がりぶりを見聞きすると恩師の当時のご指導が改めて思い出され、「同窓生よ、もう少し馬鹿になれ!」と私は言いたい。

今は高道路の下に霞んではいるが、新緑深き校庭であつた時代の千代の松原における垂訓の一端である。

力説されておられましたが、その思いが現実になるのに十年かかりました。関西朝日「創刊号」に紹介された「ふくよか会」(関西福岡同窓会連絡会)がそれです。今年三月に第二回総会を開催したところ、三十二校の同窓会関係者が集まり、情報交換するとともに親交を深めました。この会は小倉、東筑、修猷館、福高、嘉穂の同窓会役員の話し合いから始まりましたが、辰巳常任幹事長には当初からいろいろのご指導を頂き現在に至っております。故郷を離れ、関西の地で活躍している福岡県人、とりわけ福高と修猷館の交流が益々盛んになることを祈念しております。

註：久保さんは、永年近畿修猷会の名幹事長として活躍されましたが、この度、東洋ホテルを定年退職し、福岡へUターンされることになりました。

架空座談会 わが会の現状を考える

これは、某日、某所で開かれた某同窓会に関する座談会の記録の一部である。出席者は次のとおり。

① 中学卒業後十年の先輩
② 一九五〇年代の卒業生
③ 一九八〇年代の卒業生

④ 一日はわが同窓会について、どう感じているか、つしやるか、腹蔵のナカとこころを話して下さい。

⑤ 近頃聞けば、会費の納入者がグンと減つとるゲナネ。

⑥ ソゲンデスタイ。この分では今年発行予定の名簿の改訂作業は進めとりまます。バツテンガ、ドゲンナルカ判りマシエンバイ。

⑦ そんなら名簿は有料にしたらヨカタイ。

⑧ 先輩はソゲンイワスバツテン、若いモンは同窓会も名簿もイランテ言うトルトモ居りますバイ。

⑨ 名簿の件は少し検討しますケン。それより若いモンは眼の同窓会に向かせる手はナカトデショウカ。

⑩ 若いモンは忙しかデスモンネ。バツテン同期の友達のはなりのあるトデス。これを組織的に拡げること考えてはドゲンデショウ。

⑪ 若いモンは忙しかデスモンネ。バツテン同期の友達のはなりのあるトデス。これを組織的に拡げること考えてはドゲンデショウ。

⑫ 今後その線を詰めて行くトガヨカトナー。

わが「同窓会論」

辰巳詢二(高6)

わが関西福中・福高同窓会の運営に携わる幹事が演説が直面する最大の課題は、同窓会会計の逼迫であり、私が平成七年に前任の松浦昭男さん(高5)から常任幹事を引き継いで以来、わが会の会計事情は悪化の一途を辿っています。

まず、最大の理由は年会費の減収であり、本紙六面に会計担当が報告するとおり、会費納入者の減少であります。会員総数は公称八五〇名とありますが、その内、会費納入者が百五十余名とはショッキングな数字です。

会費の減収は、年々減少傾向にあり、本紙六面に会計担当が報告するとおり、会費納入者の減少であります。会員総数は公称八五〇名とありますが、その内、会費納入者が百五十余名とはショッキングな数字です。

つて生かされている動物だと言います。同窓会も一つの社会ですから、より多くの社会と係わりを持つことが、より豊かな人生を拓くことにならないでしょうか。

同窓会は、「旧交を温め、さらに、新しい交流の扉を開く」には、最もふさわしい場であると確信します。何故なら、われわれは千代原頭という共通の場を心に持っているからです。寒風肉裂く冬の朝に立花山を眺め、熱砂骨焼く夏の夕べ、多々良河畔に汗を散らせた春秋の体験は、われわれの心を無条件に結び付けます。

もともと関西は生産人口の流動が激しい地域です。わが会の八五〇名の会員のうち約一〇〇名は転出、転居の知らせがない幽霊会員ですが、他方新規転入または単身赴任からのカムバツク等の連絡がないままの潜在会員も多数存在すると思われまます。

わが母校と同規模の他校同窓会で千から千三百名と称している会も幾つかあります。そのうち、わが会も、実勢力はそれ位だと推測しています。そうすると、わが会の結束は、他に劣っていることになり、幹事会は、会員情報の収集と伝達能力の強化を図る必要を感じます。そのため学年幹事制度の拡充を図りたいと考えています。



乾杯の音頭をとる
田中太郎先輩(中1)

重みを感じませんか。それが、同窓会を愛する気持ちの原点だと思えます。

「年寄りの感傷」と言つてこの考えを一蹴する向きや同窓会の必要を感じない年代もあるでしょう。しかし人は皆、年をとるものです。最近、多くの先輩から聞く次のような言葉が心に響きます。曰く「母校への恩返し、曰く「先輩の労苦を無効にせず」また曰く「若い人と同じレベルで」。すべて、人生の荒波を乗り越えてきた先輩方の「同窓の絆」を意識した言葉だと受け止めていきます。

また、「人間とは社会に必要とされている動物だ」と言います。同窓会も一つの社会ですから、より多くの社会と係わりを持つことが、より豊かな人生を拓くことにならないでしょうか。

す。一方、会員諸氏におかれは、学年幹事を中心にして、同期会の輪を大切に守り育てられることを期待します。同期の輪こそが、同窓会の基本だからです。

先月、私は東京同窓会の総会に参加しましたが、同期生の輪が温かく迎えてくれました。そのときに、中学一回生の大先輩が出席しておられ、九六才という年齢にもかかわらず、カクシ

- 回総会をホテル日航大阪で開催した。参加者九名。
- ◆本部同窓会総会に参加◆
平成一〇年六月十四日
辰巳常任幹事が参加し、本会の現状を報告した。
- ◆どなたか会の開催◆
平成一〇年五月十四日
第二三回どなたか会を城山ゴルフ倶楽部で、平成一〇年一月七日、第二四回を大宝塚ゴルフ倶楽部で、今年四月十五日、第二五回を大宝塚ゴルフ倶楽部でそれぞれ開催した。優勝者は三回連続で村山晃さん(高4)。次回は十月二日枚方カントリー倶楽部で開催予定。
- ◆本部会長の御逝去◆
今年一月十六日
山本哲夫会長(中9)のお葬儀に際し、本会として弔電を打ち哀悼の意を表した。
- ◆新年宴会の開催◆
今年一月三日
恒例の新年宴會をホテルクライトン新大阪で開催した。新年宴會の開催は、年末に学年幹事宛に案内しますという気にならしめる東京同窓会のあり方に感銘を受けて帰ってきました。
- ◆同窓会の会合は快い感慨を与えてくれるものです。
- ◆ふくよか会総会への参加◆
今年三月一日
小山副会長、辰巳常任幹事長、大住常任幹事が出席した。参加同窓会三校。
- ◆東京同窓会総会に参加◆
今年四月十五日
辰巳常任幹事が参加して、本会の現状を報告し交流を深めた。
- ◆会員の叙職◆
山下徳夫氏(中1)衆議院議員、元厚相が、今春、勲一等旭日大綬章を受賞されたので祝電をお送りした。
- ◆本会総会の開催◆
今年五月十五日
関西福中・福高同窓会十六回総会を天王寺都ホテル新館で開催。参加者約百名。
- ◆祝 福岡県人会三〇年◆
今年五月二十九日
本会から江崎顧問、合屋会長、辰巳、大住が参加。
- ◆本年度の事業予定◆
近日中に、平成十一年度版会員名簿を発行する予定。①ご自身の住所や勤務先に異動があった方。②同窓生の異動の情報をお持ちの方。③平成八年度版名簿にミスプリントを発見した方。は、即刻ご連絡下さい。
- ◆本部総会のお知らせ◆
平成十一年六月十三日
ホテル日航福岡で開催予定。
- ◆同窓会のお知らせ◆
同窓会は例年の会合を本部同窓会の前日、竹下の朝日ビル園で開催しています。本部同窓会に参加される方飛び入りでも覗いて下さい。
- 【訃報】
昨年四月以降にご逝去の連絡を頂いた方です。ご冥福を祈ります。
- 本部長山本哲夫殿(中9)
中島輝弘殿(中15)
河村輝一殿(中22)
安富宏郎殿(高6)
藤田教明殿(高10)

あけん
ごらん
ごらん

仁寿会

全国同窓会

三笠正人

(中20)

昨年十一月十二、十三日に中学二〇回卒の全国同窓会をビカビカの明石海峡大橋と野島断崖を目玉に神戸淡路コースで行いました。

老いてなお好奇心旺盛な「青年」連中が全国から十八人(プラス奥様五人)集まり、好天に恵まれた二日間を共に楽しみ、旧交を温め、たいへん喜ばれました。詳細は、本家「朝ぼらけ」に譲りますが、このコースは神戸異人館、橋の科学館、淡路人形浄瑠璃、大塚陶板美術館、鳴門渦潮まで無理なく回れ、絶対お薦めできます。新神戸駅集合、解散なら福岡や東京からたいへん便利です。ただし淡路島で一泊し、二日は貸し切りバスで回ることにします。

案内状に予告したとおり、この日の洗濯で参加者全員最低二日は長生きし、この二日は「丸儲け」となるはずです。

(幹事:合屋、馬場、三笠)

関西八起会の集まりから

大住旦生(高8)

関西八起会の会員(高8+9+10年生数人)は連日、多忙組と充電組とが三ヶ月に一度集まり、家庭や職場で言えないことを並みとして保存されている。日西に傾きかけ、蔵元藤井本家の見学。樹齢五百年のケヤキの大黒柱はNHKの「大黒柱物語」で放映され、朝の連続テレビ小説「甘辛しゃん」の場面もこの酒蔵で撮影されたとか。また、新嘗祭の御神酒の蔵元として有名な所。最後に、試飲コーナーの美酒で喉を潤し、ホッと一息。



聖徳太子創建の石馬寺から旅は始まった。澄みきった青空のもと、木々の続くのどかな町並みを過ぎ、連なる湖東の山々を眺めながら近江平野をのんびりとドライブ。紅葉で有名な湖東三山の金剛寺、西明寺へ、紅葉も始まり気分は最高!。多賀大社(長寿と縁結びの神)でしっかりとお参りをすませて昼食。

午後、歴史民俗資料館(藤井彦四郎の広大な屋敷を改修)を見て、五箇荘町の散策へ。この町は、近江商人の発祥の地として広く知られ、白壁と舟板塀の蔵屋敷や優雅な庭園、堀に沿って用水路が巡る。歩いてみると、あの天祥の時代にタイムスリップしそうな、それ程よく町並みとして保存されている。日西に傾きかけ、蔵元藤井本家の見学。樹齢五百年のケヤキの大黒柱はNHKの「大黒柱物語」で放映され、朝の連続テレビ小説「甘辛しゃん」の場面もこの酒蔵で撮影されたとか。また、新嘗祭の御神酒の蔵元として有名な所。最後に、試飲コーナーの美酒で喉を潤し、ホッと一息。

どんたく会の近況
村山晃(高4)

関西福中・福高同窓会のゴルフ愛好者による「どんたく会」は、今年四月五日(木)に開催された大塚酒蔵ゴルフ倶楽部での例会で二五回目となります。

「どんたく会」の会員数は、五〇名強ですが、四、五組のコンペになったり、二組しか出来ない淋しいこともありましたが、これまで、土曜日の開催を原則としてきましたが、回を重ねるにつれ、年齢層も上がり時間的余裕もでき、お互い気心も知れてくるうちに、常連メンバーが増え、きました。そうしたなか、平日開催という意見が多くなり、本曜開催としました。そのことによつて、皆の足の便が良い所をエントリし易くなり、費用も安く済むようになった結果、最近では、四、五組の賑やかなコンペとなっております。

常連メンバーの中心は、高3回から高13回ですが、会員のなかには、飛距離にのみ生き甲斐をもつて参加する方、午前中は好スコアで回っているのに、昼食時のビールを境にして午後のスコアが乱れる方、ダブルペリアの隠しホールの的中率が高く、連続して上位入賞する方等々、多士済々の賑やかで楽しい会合です。



書籍紹介

山下忠男(高8)著

「奇跡のトライ」

* 鼻癌悪性黒色腫からの生還 *

正面タックルの気迫でガンに立ち向かい、生と死の間を行き交った男の二年九月におよぶ壮絶な戦いの記録である。医師団とのチームワークを大切にしながら、状況を冷静に見極めるさまは、ラグビーの大試合に臨む主将の果敢な決断を彷彿とさせる。気力、体力、果敢そして家族愛が「奇跡のトライ」を生んだ。

「自分の原点は福高」と言い、博多出張の折、深夜の福高のグラウンドに二十数回立ったという。平成八年二月、横浜市在住の山下さん(高8)と大阪で痛飲したときの話である。その彼が一ヶ月後に入院し、「余命六ヶ月」と告げられる。

書籍紹介
「ヨーロッパの街並みと屋根」

向田直幹(高7)著

「ヨーロッパの街並みと屋根」

著者に面識はないが、略歴を見て同窓生と知った。この写真集は、著者の魅力的な感性によって、ヨーロッパ中世の街を眼前にくり広げ、かの地の建築文化の根源を語りかける。そして、今なおそこに暮らす人々への想いを誘う。

(精文社発行 定価¥800) 辰巳純二(高6)記

活躍し、リコーでは、国体、全国社会人大会そして日本選手権でも優勝している。

抗ガン剤を九クール施した後、千葉市内の科学技術庁放射線医学総合研究所治療センターで、重粒子線照射を一回受けた。アメリカでもまだ二つの大学が臨床試験段階の新治療法だそうである。これで奇跡的にガンが消えた。鼻腔にできた悪性黒色腫が血液、リンパ、肺、皮膚、骨にも転移し、それが消滅したのは、世界最初のケースであり、生存日数も、この四月で従来の記録を更新したという。

「奇跡のトライ」(平成十一年三月池田出版)は、「週刊朝日」や「日刊スポーツ」で紹介され、「大塚酒蔵」などのノンフィクション賞にノミネイトされている。

松田元信(高8)記

同窓会の会計

会計担当 柴田忠良(高12)

平成一〇年四月から平成一一年三月末までに、別項のように一五四名の皆様から年会費、永年会費、及び寄付金が寄せられました。有り難うございました。

今回、会報の発行を機会に、昨年に引き続き、会計の状況を報告します。

会の収入は、年額二千円の会費、永年会費一万五千円と寄付金からなっています。

支出は、幹事会、拡大幹事会、当番幹事会および総会の開催に係る案内、連絡等の事務費、幹事会等の会費、および三年に一回発行される名簿作成郵送費です。

同窓会運営の根幹に係わる年会費の納付状況の推移を次表に示します。

永年会費及び年会費納入状況

平成5年度	575千円	(224名)
6年度	790千円	(220名)
7年度	628千円	(164名)
8年度	586千円	(175名)
9年度	486千円	(161名)
10年度	386千円	(154名)

平成10年度決算報告

科 目	決算額
1. 収入の部	
1) 年会費	386,000
2) 総会収入等	935,000
3) その他の収入	169,317
当期収入計	1,490,317
前期繰越金	660,130
総 合 計	2,150,447
2. 支出の部	
1) 運営費	342,317
2) 総会費	1,295,012
当期支出計	1,637,329
名簿作成引当金	300,000
次期繰越金	213,118
総 合 計	2,150,447

「関西朝ぼらけ」の創刊号にも書きましたが、これまで同窓会の中心的な存在であった先輩方が永年会員になつていられる一方、新入会員が殆どない状況で、今後の会の運営が危ぶまれます。事務局では、経費の

削減に努めてきましたが、会費未納の方々は、ぜひとも協力をお願いします。また、異動状況を報告してくる会員が少なく、郵送した案内状等が宛先不明で多数戻ってきます。因みに、平成八年度に掲載されている会員数は約八五〇名ですが、昨年の総会案内では約八〇〇名、今年は約二〇〇名が戻ってきました。従って、一昨年に比べ約一〇〇名の方が幽霊会員となっているわけですから、これに近しい数の方々が関西圏に転入していると思われるが、その動向は、殆ど把握されていません。そこで、会員の皆様へお願いですが、ご自身の場

平成10年度 会費納入の御礼

平成一〇年四月から一一年三月末までの間に年会費を納入くださったのは次の方々です。なかには、永年会員であるにも関わらず会費を頂いた方もあります。有り難うございました。お礼の意味を込めてご氏名を掲載させていただきます。万一名前が漏れている場合はご容赦下さい。

(卒業別、敬称略)
(中8) 神武敬彦 (中12) 個利夫、深見龍一郎 (中13) 松井辰彌 (中19) 篠崎栄一 (中21) 那須俊人 (中22) 北崎雅宣、中村謙輔、(中24) 猪野又太郎、大石吉彦 (中26) 坂敷庸一 (高1) 梅津明治郎、三宅進 (高2) 瀬戸英助 (高3) 井上利明、菊池光時、田中隆之 (高5) 杉原行幸、表谷進 (高6) 大崎謙吉、斎藤敬三、吉増良介 (高7) 中村佳典、今村和子 (高8) 鮎川大之助、日村正典、角田喜治、古賀健司、豊福勝臣、橋山英二 (高9) 池尻一寛、井上幸一、桑田芳明、栗森保雄、甲山重敏、津嶋礼文、増田忠勝、渡辺征一郎、赤尾浩子 (高10) 綾戸健一、市橋和明、井上博之、上田良宏、布川雄三、野見山謙、橋上健志、広瀬一憲、伏見貞夫、村上明、渡辺亨、石川八重子、

井上和子、大橋由美子、片淵和子、権藤京子 (高11) 大部秀一、神代二郎、坂口英雄、宗我健一、久野陽一、藤野基太郎、三浦元、三浦弘光、吉田昌廣、吉村公一、米倉俊一、上山悦子 (高12) 稲石鏡之、稲田幸、内山雄彦、大隈征氣、柴田忠良、仲久夫、野田昭雄、橋本和実、馬場茂、本村正一、今村圭子 (高13) 梅崎武司、桑野知泰、友松宣昭、長末雅之、藤波賢典 (高14) 深沢健、落石賢司、森田能正、岩井史子、中川澄子 (高15) 高木勝徳、林田直昭 (高16) 杵島良仁、佐藤光男、宮本義海、神山弘子、正木きよみ (高17) 浦原篤志、占部信廣、狩野東彦、米川哲哉、網本美恵子、伊東恵子、大西澄子 (高18) 秋根一昌、経豊、吉田芳一、堀ノ内トシ子 (高19) 江藤敏行、首藤春樹、西保嘉幸 (高20) 池田緑、鈴木庸子、山田陽子 (高22) 斎藤美、伊達貞夫、森恭之助、原澄代、北条亮子、山本洋子 (高24) 中野義信、松田親児、山本尚子 (高26) 印恭則、橋本隆博、篠原亨、森大輔 (高27) 磯野栄一 (高28) 中村昌典、奥智恵、中川典子 (高29) 寺田澄生、富安幸博、平間宏 (高31) 柴田幸生、高田智恵 (高34) 溝股洋一 (高37) 塚幸高、河本一憲

【永年会員】
(六〇才以上で、永年会費を納入された方)
(中8) 東藤武男 (中10) 江口尚 (中12) 岩崎宗次郎、西原直道、林正 (中13) 大隈壮介、近松勲 (中15) 中島輝弘、長田道男、矢吹増太郎 (中16) 江崎慎一 (中17) 高橋清、寺岡敏郎、山下徳夫 (中18) 阿部尚、神崎利勝、五島四郎、高見賢次 (中19) 春日茂男、篠崎栄一、宗俊精三郎 (中20) 小澤創、合屋嘉人、馬場功三笠正人 (中21) 白水健次、橋本耕蔵 (中22) 三原啓介 (中23) 高山清 (中24) 猪野俣太郎、大石吉彦、斎藤長門、佐田季男、猿渡純夫、武田武、松永昭 (中25) 浦野長幸、児島道男、斎藤大典、林弘康、美和仁 (中26) 坂敷庸一、柴田定衛、吉田俊男 (高1) 相原胖、天野哲男、清水逸雄、白川浩、津田厚、日高昭典、深川正人 (高2) 木村清三郎、清水輝久、田原純一、福井要雄、松村寿、安武生司、山本雅典 (高3) 井上利明、岡田七郎、岡田大作、小林龍太郎、田村照国、寺岡健吾、中野明、元村哲男、古田幸一 (高4) 小山富夫、黒川正躬、島田英俊、豊原義博、増原之夫、松岡茂、村山晃、新谷京子 (高5) 井浦重信、伊藤晋、岡重邦、小林恒夫、佐伯尚孝、定宗和正、田中親治、徳永晴男、松尾省三、金子洋子、北川(高) 堀子、古藤寿々子、中山慈子、森岡久子 (高6) 辰巳詢二、松岡幹郎、粕谷泰子、高田喜美子 (高7) 植松健二、遠藤弘行、岡崎正孝、田島信義、松尾千秋、吉住武章、森崎子 (高8) 大住且生、久保見弘、萩尾克明、松田元信、三浦哲也、山田欽也

編集後記

担当者の都合で当紙の発行期日が二ヶ月も遅れてしまい、お詫び申し上げます。

その代わり、会長および副会長の交代を収録できました。また、多くの方々の協力により、原稿が多数集まったので、前回の四頁を六頁建てに増やしました。意のあるところが皆様に多く伝わればと願っています。

創刊号に引き続き、今回も多数の方の指導を得て、パソコンの手づくりで何とか完成させました。 辰巳